

経営比較分析表（令和2年度決算）

茨城県

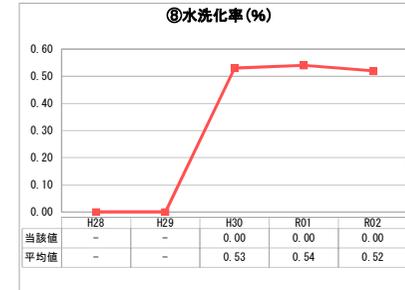
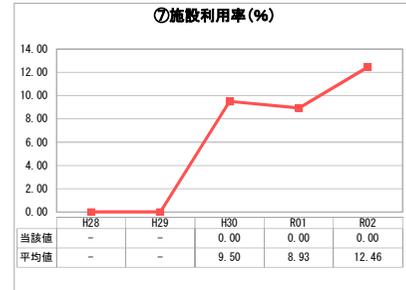
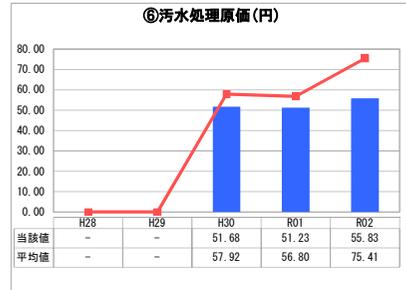
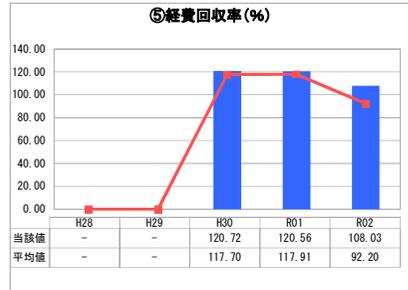
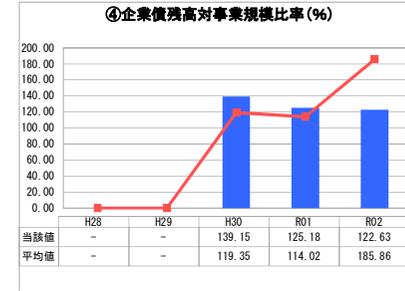
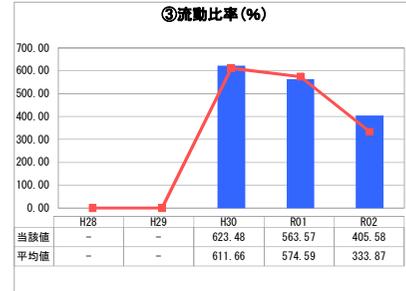
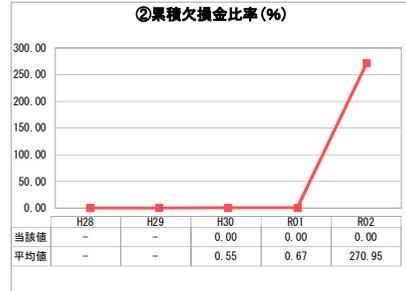
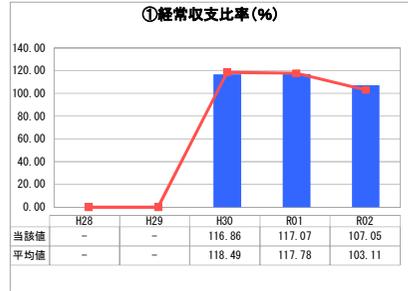
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定公共下水道	-	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	80.17	1.41	94.79	0

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,907,678	6,097.39	476.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
40,311	41.95	960.93

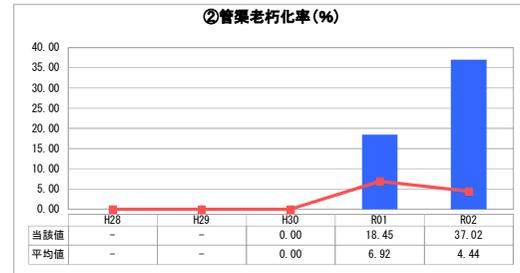
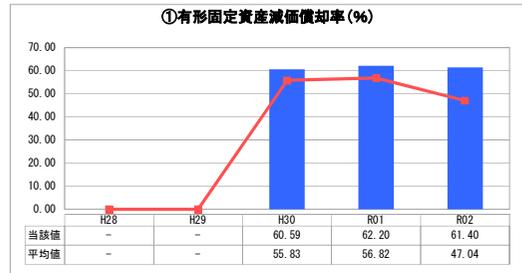
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率・② 累積欠損金比率
 経常収支比率は100%超の水準で推移し、累積欠損金も発生していないため、経営は健全な状況である。

③ 流動比率
 100%超の水準で、当面の支払能力に問題はない。

④ 企業債残高対事業規模比率
 新規の借入は行っておらず、返済計画に基づき着実に返済しており、企業債残高は減少し、平均を下回っている。

⑤ 経費回収率
 100%の水準で推移し、健全な状況である。

⑥ 汚水処理原価
 企業の生産活動の状況により、汚水量の増減はあるが、平均を下回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産償却率は60%超の水準で平均値を上回っており、法定耐用年数の上限に徐々に近づき、供用開始から50年以上経過し、管渠や施設の老朽化により、劣化が著しい状況である。

② 管渠老朽化率及び③ 管渠改善率についても、法定耐用年数を超えて管渠を供用しているものもある。このため、ストックマネジメント計画により、計画的に改築・更新を行い、老朽化対策を行っている。

全体総括

経営状況は良好であるが、供用開始から50年以上経過し、老朽化対策として処理場の全面的な再構築を含めた検討が迫られている。

また、各地域のコンビナート間の競争激化や、コロナに伴う企業の生産活動の変化などにより、今後の経営状況に影響を及ぼすことが懸念される。このため、ストックマネジメント計画により、計画的に改築・更新を図っていくとともに、一層の経営の効率化に努めていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。